

# まつやま 重信川版 洪水ハザードマップ

## 意識と準備が命を守る!

松山市

### 洪水から身を守る

#### 洪水発生メカニズム

洪水は大雨による河川の増水により、堤防が決壊するか、川の水が堤防を越えるなどして起こります。

#### 都市型水害について知る

大規模な洪水以外にも、都市部は舗装された道路や宅地が多く、降った雨は地中に浸透しにくいので、川や水路、下水道に一気に集まります。そのため、次のような危険がありますので注意しましょう。

- 低地の冠水**：低地や道路のアンダーパスでは冠水が起り、車が立ち往生し水没する危険があるため、通らないでください。
- 地下への冠水**：地下で冠水すると、①水圧でドアが開かない ②水が水が流れる ③外の物が分からず逃げ遅れるなど、命に関わる危険があるため、早めの避難が必要です。
- 中小河川の増水氾濫**：都市部の中小河川は、急に増水し、流れが速くなり、氾濫するおそれがあります。掛って転落しないよう、大雨の時は近づかないでください。
- 過去の浸水**：過去に浸水があった所は、大雨の時、再び浸水するおそれがあります。事前に確認し、避難する際このような所は避けましょう。
- 過去の浸水(浸水実績)**については、松山市のホームページで確認できます。

#### 雨の強さと降り方、災害発生の目安

1時間雨量(mm)	10以上~20未満	20以上~30未満	30以上~50未満	50以上~80未満	80以上~
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	(ゴウゴウと降り続く)	息を切らさずにはいられないような降り続く
人への影響	地面からのぬれ雨で足元が濡れる	傘をささなくても濡れる	濡れている人の半数くらいが雨がつかづく		
屋内(床高住宅を基準)	雨の音で耳が痛くなる				
屋外の様子	地面一面に水たまりができる				
車の運転	ワイパーを速くしても見づらい				
災害発生状況	この程度でも、長く降り続けると注意が必要。	側溝や下水道、小さな谷が溢れ、小規模のけがれが始まる。	山崩れやけがれが起きやすくなり、土砂災害警戒区域等では避難の準備が必要。都市部では下水道から雨水が溢れる。	高層ビル、エレベーターと道路の間に水が溜まり、ブレーキがきかなくなる	車の運転は危険

### わが家の防災メモ

ハザードマップを使ってわが家の防災メモを完成させましょう！地図を確認して、該当するところにチェックを記入しましょう。

#### 自宅の災害リスク

浸水深  浸水無し  0.5m未満  0.5~3.0m  3.0~5.0m  5.0~10.0m

家屋倒壊等氾濫想定区域  氾濫川の想定区域内  河岸浸食の想定区域内  想定区域外

浸水継続時間  12時間未満  12時間以上1日未満  1日以上3日未満  3日以上1週間未満

#### 避難の方法

このハザードマップを参考に、避難の方法を確認しましょう。

避難の方法  屋内待機  垂直避難(階に避難)  立ち退き避難

#### 避難場所

自宅から避難場所までの経路や時間を確認しましょう。

避難場所  自宅から避難場所までの時間

#### 非常持ち出し品チェックリスト

下記はあくまでも一例です。各家庭の事情に合わせてものを用意しましょう。

貴重品  現金  印鑑  健康保険証・預金通帳 ※コピー可

水・食料  飲料水  携行食・非常食 ※ビスケット・缶詰など

医療・衛生用品  服用している薬  救急医療品  歯ブラシ・口腔ケア用品  マスク  消毒液  液体せっけん  非常用トイレ  生理用品  入れ歯  眼鏡・コンタクト

避難用品  ヘルメット・防災ずきん  懐中電灯  スリッパ  軍手  ホイッスル

道具類  携帯電話・充電器  携帯ラジオ  電池  時計  ロープ

衣類  上着(防寒着)・下着・靴下  雨具(レインコート)

生活用品  ウエットティッシュ・ティッシュ  タオル  ゴミ袋・ポリ袋  レジャーシート

#### いざという時の連絡先

松山市内の市外局番は「089」です。

- 消防(火災・救急・救助) (市外局番ナシ) **119**
- 警察(事件・事故) (市外局番ナシ) **110**
- 松山市消防局 **926-9200**
- 松山市災害対策本部(設置時) **987-7000**

火災・救急病院の問い合わせ(テレホンサービス)

- 火災 **925-6622** (松山市消防局)
- 救急病院 **925-6633**

まつやま 重信川版 松山市 総合政策部 防災・危機管理課

〒790-8571 愛媛県松山市二番町四丁目7-2  
TEL.089-948-6793 FAX.089-934-1813  
https://www.city.matsuyama.ehime.jp/

### 防災気象情報の種類と内容を知る

#### 災害発生の危険性を5段階でお知らせします

災害発生のおそれが高まった場合、市や気象庁などから様々な情報が発表されます。これらの情報に注意し、段階に合わせた適切な行動をとります。

警戒レベル	市民の皆さんがとるべき行動	避難情報等	警戒レベル相当情報
警戒レベル5	災害が発生・切迫している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう。	緊急安全確保(松山市が発令)※	氾濫発生情報 大雨特別警報 など
警戒レベル4	速やかに避難行動をとります。避難場所までの移動が急を要する場合は、近くの安全な場所への避難や自宅のより安全な場所に避難しましょう。	避難指示(松山市が発令)	氾濫危険情報 土砂災害警戒情報 など
警戒レベル3	高層の方、障がいのある方、乳幼児など、避難に困難な方とご家族やご近所の方は避難行動をとりましょう。その他の人は、避難の準備をしましょう。	高齢者等避難(松山市が発令)	氾濫警戒情報 大雨警報 など
警戒レベル2	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。	大雨注意報 など(気象庁が発令)	
警戒レベル1	災害への心構えを高めます。	早期注意情報(気象庁が発令)	

※可能な範囲で発表されるもののみ、必ずしも発表されるものではないことに注意してください。

#### 気象庁からの注意報・警報

- 大雨・洪水注意報**：大雨により災害が発生するおそれがあるときに発表されます。
- 大雨・洪水警報**：大雨により重大な災害が発生するおそれがあるときに発表されます。
- 大雨特別警報**：台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合に発表されます。すでに災害が発生している可能性が高く、大雨特別警報発表までに避難することが重要です。

#### 危険水位について

重信川の水位(水位が最大下流250m)

氾濫危険水位 **5.10m**  
避難開始水位 **4.60m**

#### 石手川ダムの放流について

放流開始の通知 — 警報について —

- サイレン雨からの警報
- 放流開始時刻30分前及び放流開始直前に、アナウンスとサイレンでお知らせします。
- サイレンの鳴り方
- 50秒鳴って5秒休みを3回繰り返します。
- 電光表示装置
- 石手川の避難所—松山中央公園の7ヶ所に電光表示装置を設置しており、ダムから放流しているときは、**赤い点滅表示(注意)**と表示します。
- 車でもお知らせしながら巡回します。

### 浸水の高さを確認

あなたのご自宅は浸水何m?

- 5.0~10.0mの浸水**
  - 2階の屋根以上が浸水
  - 水流が強い場合には、木造住宅が倒壊・流出する危険がある
- 3.0~5.0mの浸水**
  - 2階の屋根まで浸水
  - 水流が強い場合には、木造住宅が倒壊・流出する危険がある
- 0.5~3.0mの浸水**
  - 2階の床下まで浸水
  - 1階部分が浸水
  - 強い水流の中を歩くことは危険
- 0.5m未満の浸水**
  - 床下浸水
  - 大人のひざ下程度
  - 浸水の深さがひざ上になると、歩行は危険

#### 「浸水ナビ」で詳しい浸水リスクを確認しましょう

地点別浸水シミュレーション検索システム「浸水ナビ」で、どの河川が氾濫した場合に浸水するか、河川の決壊後、どれぐらいの時間で氾濫した水が到達するか、どれぐらいの時間、浸水が継続するか、ピンポイントの詳細な浸水リスクが確認できます。自分が住んでいる地域に、どのような被害が想定されているのか、事前に確認し、適切な避難行動につなげましょう。

詳しくは、ホームページ「浸水ナビ」をご覧ください。

### 状況に応じた避難行動をとる

#### いつ避難するかを決める!

屋内待機、垂直避難、立ち退き避難

避難場所は、小中学校・公民館だけではなく、安全な親戚・知人宅に避難することも考えましょう。

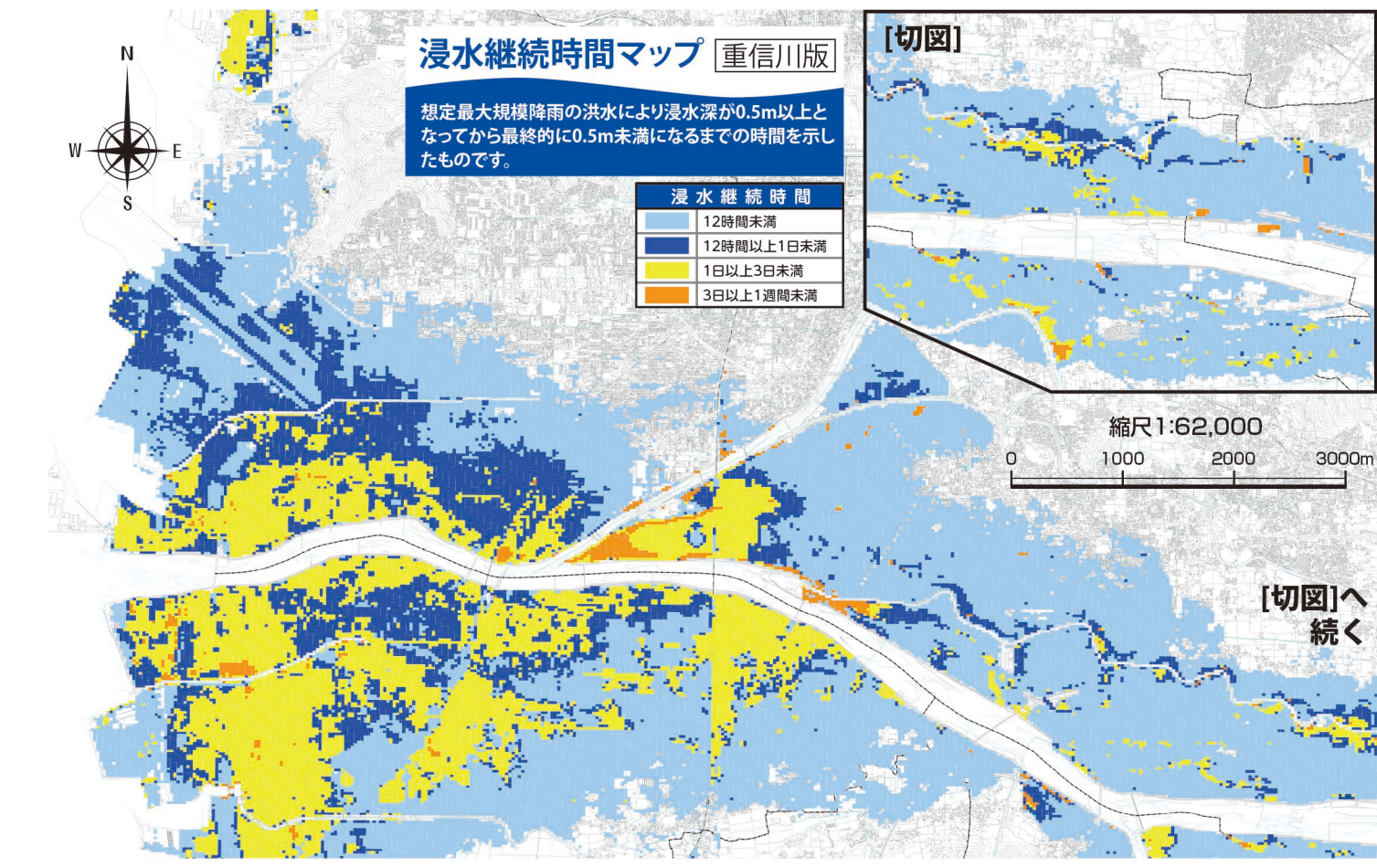
#### 大雨・洪水時の避難のポイント

- ひざまで水につかると歩かなくなります**：冠水している道路を渡る際は危険です。歩ける水の深さは50cm程度が限界です。
- ロープにつながって**：子どもなどは大人とロープで体を大きく支えよう。
- 足元に注意**：水中の障害物に注意し、長い棒を杖代わりにして確認しましょう。道路は歩き遅く、浅い水でも歩かなくなります。
- 子どもやお年寄りを安全に**：小さな子どもや足の不自由なお年寄りには背負います。ベビーカーを使用する方法もあります。
- 危険なところは避ける**：狭い道、けがれや川のそばは避けましょう。電線が倒れ、電線には近づかないようにしましょう。

#### 特に注意が必要なおとこ

- 地下空間**：地上の様子から分からないため、逃げ遅れる危険があります。
- アンダーパス(地下道)**：鉄道や道路の下をくぐることは危険です。水がたまりやすいため、大雨の際には通行を止め、急激な増水により、60cm程度の水位で車のドアが開かなくなるので、車は止まったら速に脱出しましょう。
- 車(運転中)**：水深30cmを超えると、多くの車はエンジンが停止します。浸水の危険を感じたら車を安全な場所に移動させましょう。
- 河原**：岸が崩れやすくなり、雷が聞こえたりきたりすると、急激な増水のおそれがあるため、すぐに川から避難しましょう。

### 浸水の継続時間を確認



#### いざというときの避難行動を確認

自宅が浸水する区域内にある。 → **屋内待機** (むやみやみ外出は控えましょう。)

自宅が家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸浸食)内にある。 → **立ち退き避難** (洪水が発生した場合、自宅にとどまることは危険です。近隣の安全な場所や頑丈な建物へ移動しましょう。)

自宅が家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)内にある。 → **垂直避難** (自宅の上階に移動しましょう。)

浸水の深さが氾濫上階の床の高さを上回る。 → **立ち退き避難**

浸水が長時間(3日以上)継続する区域内にある。 → **垂直避難**

非常時に備え、水・食料は1週間程度の備蓄をしておきましょう。 ※マスクや消毒液、液体せっけんなども準備しておきましょう。

### 状況に応じた避難行動をしよう

避難とは「逃げる」こと

マップで浸水の深さを事前に確認しましょう。ハザードマップで自宅周辺の浸水の深さや家屋が倒壊・流出する危険性を確認しておきましょう。

避難先を事前に決めておきましょう。浸水の深さに応じた避難行動や、避難先を決めましょう。また、避難先までの経路や時間も確認しておきましょう。

早めに避難をしましょう。命を守るため、早めの避難を命掛けましょう。海岸・河川・水路などには絶対に近づかないようにしましょう。

情報を基に避難の判断をしましょう。避難の決定は、様々な情報から判断しましょう。特に避難情報は命を守る重要な情報です。

#### 避難情報などの伝達、入手方法

松山市では、様々な方法で避難情報などを発信しています。様々な情報の入手方法を知っていれば、いざという時にも役立ちます。ごころから確認して、自らの命は自らが守りましょう。

- 防災行政無線**：市内284カ所の屋外スピーカーから災害・気象情報をお知らせします。放送後48時間以内は、テレホンサービスで放送内容を確認できます。
- 広報車**：市有車や消防車によるマイク放送をします。
- テレビ・ラジオ**：避難情報や避難所開設情報は、テレビのデータ放送でも確認できます。NHKのラジオは安心です。変換CATVでは、「お知らせチャンネル12」で、市からの情報を自動で繰り返し返します。
- メール配信**：まつやま防災メール(事前登録が必要)、松山市防災メール(事前登録が必要)、緊急速報メール・エリアメール(気象庁が発令する緊急地震速報・津波情報や市が発令する避難情報などを対象エリアにいる携帯電話に一斉送信します。事前の登録は不要です。)
- スマホアプリ**：松山市マイ・タイムライン防災アプリ、Yahoo!防災速報、スマートフォンをお持ちの方は、アプリで情報を確認することができます。マイ・タイムライン防災アプリでは、避難情報や気象情報など、災害情報もプッシュ通知されます。
- SNS・ホームページ**：松山市ホームページ、松山市公式LINE、松山市防災情報Facebook、松山市防災情報X(Twitter)、松山市防災情報R(Twitter)、Facebook・X(Twitter)では松山市からの情報をシェアしたり、リストバ(ツイート)したりすることで情報を拡散できます。

#### 川の水位情報

川の水位情報

浸水キル(大雨警報(浸水)の危険度分布) 洪水キル(洪水警報の危険度分布)

川の水位情報は、河川に設置されている通常水位計や危機管理型水位計で観測した最新の河川の水位情報から、パソコンやスマートフォンで確認できます。また、河川監視カメラの映像も確認できます。非常時の避難行動などに活用してください。

詳しくは、ホームページへ。